科目基礎情報 ^{科目番号}	151400		初日区公	南明 / 沙州	z					
科日金亏 授業形態	151408 講義		科目区分 単位の種別と単位数	専門 / 必修						
皮栗形態 開設学科	1	바다)	対象学年	履修単位:	2					
_{用設子科} 開設期	環境材料工:	子件		2						
^{刑政刑} 数科書/教材	教科書:基	遊からわかる電気化学 泉生一郎、	──週時間数 _他_森北出版_参考書:/	バーロー 物理	里化学 大門 寛、他著 東京化学同					
		気化学 電気化学協会編 培風館 電	3気化学概論松田好晴・岩	倉干秋 丸善	など電気化学に関するもの。					
旦当教員	新田 敦己									
到達目標	man— → -1	Free 1 23-11								
4.電気二重層の構造を5.過電圧の意味を理解で 5.がトラー - ホルマー第 7.腐食における局部電流 3.不動態化の原理を理解で 9.プールベイ図を理解で	- ド反応を をを をを をを を を を を を を を を を を を を を を	解できること。 めることができること。 と。 分かること。 、ターフェル式を理解できること。 でき、代表的な分極曲線が描ける。	こと。							
レーブリック	**************************************	angle of the state								
レーンソツン		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安					
平価項目1		ファラデーの法則が理解でき、応 用問題が解けること。			ファラデーの法則が理解できず、 基礎問題が解けない。					
平価項目2		アノード反応、カソード反応が理解でき、反応式が書け、応用問題が解けること。	アノード反応、カソー	ド反応が理、基礎問題	アノード反応、カソード反応が理解できず、反応式も書けず、基礎問題が解けない。					
平価項目3		電池の反応式が書け、起電力および各電極電位に関する応用問題が 解けること。	電池の反応式が書け、 び各電極電位に関する 解けること。	起電力およ 基礎問題が	電池の反応式が書けず、起電力および各電極電位に関する基礎問題が解けない。					
F価項目4		電気二重層の構造が理解でき、応 用問題が解けること。	電気二重層の構造が理 礎問題が解けること。	解でき、基	電気二重層の構造が理解できず、 基礎問題が解けない。					
平価項目5		過電圧が理解でき、応用問題が解 けること。	過電圧が理解でき、基けること。	礎問題が解	過電圧が理解できず、基礎問題が 解けない。					
評価項目6		バトラー – フォルマー式の導出およびターフェル式が理解でき、これらに関する応用問題が解けること。	よびターフェル式が理	解でき、こ	バトラー - フォルマー式の導出およびターフェル式が理解できず、これらに関する基礎問題が解けない。					
評価項目7		腐食における局部電池機構の理解 おほび代表的な分極曲線を描くこ とができ、これらに関する応用問 題が解けること。	おほび代表的な分極曲 とができ、これらに関 題が解けること。	線を描くこ する基礎問 	腐食における局部電池機構の理解 おほび代表的な分極曲線を描くこ とができず、これらに関する基礎 問題が解けない。					
平価項目8		不動態化の原理が理解でき、これらに関する応用問題が解けること	不動態化の原理が理解 らに関する基礎問題が	でき、これ 解けること	不動態化の原理が理解できず、これらに関する基礎問題が解けない。					
平価項目9		・ プールベイ図が理解でき、これら に関する応用問題が解けること。			プールベイ図が理解できず、これらに関する基礎問題が解けない。					
平価項目10		電気伝導率、イオンの輸率、移動 度について理解でき、これらに関 する応用問題が解けること。		これらに関	電気伝導率、イオンの輸率、移動 度について理解できず、これらに 関する基礎問題が解けない。					
評価項目11		光触媒反応の原理が理解でき、応 用問題が解けること。	光触媒反応の原理が理 礎問題が解けること。	解でき、基	光触媒反応の原理が理解できず、 基礎問題が解けない					
学科の到達目標項目	ヨとの関係	<u> </u>								
厚門知識 (B)										
数育方法等										
既要	材料には必る。また、 ることは、 である。	ず表面・界面が存在し、そこでは めっきやガスセンサーなどは表面5 材料開発にとって大変重要である。	様々な現象が起こっている 見象を利用したものである 電気化学は、これらの表	る。その中でも る。したがって 表面・界面現象	5腐食は、代表的な表面現象であ こ、材料の表面・界面挙動を理解す 象を理解するための基礎になる学問					
受業の進め方・方法	本講義ではいても解説	、電気化学の基礎理論に重点をお する	き、解説する。また、近年	注目されてい	\る燃料電池、光触媒の原 理につ					
. 点意:	履修上の注意 正当な理由の場合を除き、授業を無断欠席しないこと。また、必ず期限どおりに課題を提出すること。 この科目は学修単位科目であるので、(90時間-講義時間)以上の自学自習を必要とする。したがって、科目担当教員が課した課題の内、(90時間-講義時間)×3/4時間以上に相当する課題提出がないと単位を認めない。(各課題ごとの時間は担当教員が設定する) 事前学習・自己学習・関連科目 3年生までの数学に関する基礎知識、無機化学および物理化学の基礎知識(特に溶液系に関する知識)が必要である。									
*科目の区分	電子材料学	の基礎科目である。各自十分予習、	復習をし、講義に備える	らこと。						
Vebシラバスと本校履行	修要覧の科目 に記載する	区分では表記が異なるので注意す 「③選択必修科目」である。	ること。							
受業の属性・履修」	 上の区分									
			_ >====================================		□ 実数収除のナス数号に トス接続					
〕 アクティブラーニン	")	□ ICT 利用	│□ 遠隔授業対応		│□ 実務経験のある教員による授業					

授業計画	 fii															
汉未可臣	<u> </u>	週	技	受業内	 容				:	週ごとの到達目標						
前期		1追		電気化学の歴史、電解質溶液の性質(1)						10						
					` .				-	10						
		3週			` '				10							
		4週			マージーンが呼吸 解質溶液の電気伝導率、モル電気伝導率				10							
	1stQ	5追						_	10							
		6追								10						
		7週		<u>- / 1 / 2</u> 中間試					10							
		8追		電解質溶液中のイオンの活量						10						
		9週		電池の起電力(1)					-	2,3						
		10		電池の起電力(2)						2,3						
		113		電極電位(1)						2,3						
		12		電極電位(2)						2,3						
	2ndQ	13		濃淡電池(1)						2,3						
		14		濃淡電池(2)						2,3						
		15		期末試験												
		16		電極と電解液界面の構造(1)						4						
		1週		電極と電解液界面の構造(2)						4						
		2逓		電極反応の素過程と反応速度					_	1,5,6						
		3逓		電荷移	動過程におり	ナる反応速度	₹(1)			1,5,6						
	2 10	4逓				ナる反応速度				1,5,6						
	3rdQ	5週	1 物	物質移	質移動過程における反応速度(1)				1,5,6							
		6逓	1 物	物質移動過程における反応速度(2)						1,5,6						
		7週] 4	中間試験												
		8週	1 1	金属の腐食						7,8,9						
後期 		9週	1 B	腐食の速度論						7,8,9						
		10	週層	腐食の平衡論						7,8,9						
		113	週~7	不活態と不動態						7,8,9						
	4+60	12	週 金	金属の	の防食				7,8,9							
	4thQ	13	週 爿	比触媒	媒(1)				11							
		14	週 爿	光触媒(2)					11							
		15	週 其	期末試験												
		16	週 訪	試験返却・総括												
モデルコ	コアカ	リキュ	ラムの学	学習内	内容と到達	目標										
分類			分野	<u>-</u>	学習内容	学習内容の	到達目標					到達レベ	ル	授業週		
専門的能力				4	無機材料	 イオン化傾向と電池の電極および代表的な電池について説明できる。					説明でき	4		前10,前 11,前12,前 13		
	カ 分野門工	別の専 学	材料系分			電気分解に関する知識を用いてファラデーの法則の計算ができる。					ができる	4 4		23 後3,後4,後 5		
				ł	复合材料	界面のぬれの観点から、複合化しやすいものと複合 のを区別できる。			「いものと複合化し	としにくいも 4			後14,後15			
評価割合	<u> </u>	1					 				T					
試験			課題演習					その他								
総合評価割合 80			20		0		0		0	0	100					
基礎的能力 0			20		0		0		0	0	20					
専門的能力 80			0		0		0		0	0	80					
分野横断的能力 0				0 0				0		0	0 0					